



図書館 だより

図書館 ☎69•3706

今月の特集 「穂村弘の世界」

今月は、歌人・穂村弘さんの歌集・エッセイを集めました。9月19日に市民会館にて行われる図書館文学講座と合わせて、穂村ワールドをお楽しみください。



『**ぼくの宝物絵本**』
穂村弘／著 白泉社
幻の名作からベストセラーまで、歌人・穂村弘が絵本を語る。

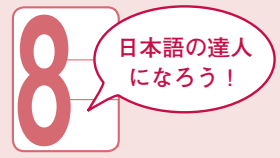


『**整形前夜**』
穂村弘／著 講談社
記憶や日常、言葉や本についての文章をまとめたエッセイ集。



『**短歌の友人**』
穂村弘／著 河出書房新社
短歌の面白さを通じて、世界の面白さに突き当たる歌論集。

分類特集は
「80」：言語
「81」：日本語



『**周囲をなごやかにするものの言い方**』
江木基彦／著 明日香出版社
ちょっとしたつけ加えで、相手や周囲をなごませるものの言い方を紹介。



『**なにげにてごわい日本語**』
金井勇人・新城直樹・佐藤有紀・熊田道子／著 すばる舎
助詞の使い分けや敬語表現など、日本語の仕組みをスッキリ解説。



『**今すぐ使える手書き一筆箋の書き方&活かし方**』
和田茂夫／著 ぱる出版
一筆箋の基本的な書き方・使い方から、そのまま使える文例集まで網羅。

他にも、スピーチの仕方、辞典、方言などの本があります。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68•2059

「ゴカイのはなし」

■ゴカイはせつない

釣りのシーズンで、水族館でもよく展示用の魚のスカウトで釣りに出掛けるのですが、エサに使う「ゴカイ」を見ると、毎回とてもせつなくなる。

その事由を並べてみると、
①魚が食べるために意志とは関係なく捕まえられる
②針を体に通されてしまうのである。なんとなく、おでんや焼き鳥の気持ちがかかる。

■ゴカイはすごい

ゴカイは環形(かんけい)動物で多毛(たもう)類というグループに分類されるのだが、しかしこれは覚えていてもその後の人生の役には立たないのでどうでもいい。しかし、知っておいてほしいのは彼らの仲間は、熱帯から寒帯、

波打ち際から深海まで、さらに海水から淡水、そして全世界中に住んでいる無敵のキモチガワルイ生き物なのである。
世界になんと8千種類ほどが知られているようで、彼らに共通するのは、竹のように節になってつながった体と、そこから生える脚。あんなにたくさんある脚を器用に動かして歩いたり、砂に潜ったり、泳いだりもする。

岩手県に住んでいた学生時代に夜に漁港へ行くとオニイソメという成長すると1mほどにもなるゴカイの大王様のような怪奇生物が月明かりの中、何十匹も海の中をワラワラと泳いでいる光景を目にしたことがあり、ここは本当に日本なのかと思ったことがある。

■飛行機で来るゴカイ

釣りでは必需品のゴカイですが、近年浜辺の埋め立てなどで数を減らし、釣具屋で売られているゴカイのほとんどは中国からの輸入品だそうです。飛行機に乗って釣りのエサのためにやってくるゴカイはやはりせつない。

それでも、環境学習などで小学生と市内の海へ行き、石をひっくり返すと細々と暮らすゴカイに出会う。女の子はおろか、引率した先生すら奇声をあげて逃げるので、若い美人な先生がいる時には、これを手に持って追いかけてたりして、からかうのに使っている。しかし書いていて思ったのですが、ゴカイ以上に嫌われるのでそういうことはしない方がいいですね。